

第2学年 英語科 学習指導案

日にち：平成20年9月24日（水）

学 級：2年2組 男子19名 女子17名 計36名

指導者：教諭 馬場 健司

1. 単元名 Unit 4 Homestay in the United States (New Horizon English Course; Book 2:東京書籍)

2. 単元について

本単元は「アメリカでのホームステイにおける家庭生活のルールの相違を知ることを通して、『完璧な英語でなくてもいいから積極的に話すこと』『率直かつ丁寧に自分の意思を伝えること』などホームステイに限らずコミュニケーションをする上で大切なことを学ぶ」ことがねらいである。

単元の内容は、前半はホームステイの心構えのアドバイスと、滞在先での初めてのベッドメイキングについての対話。後半は、ホームステイに来ている生徒からの相談と、先生のアドバイスという構成である。アメリカでのホームステイで起こりうる生活習慣の相違に触れ、「しなければならないこと」や「してはいけないこと」などを表現するために、助動詞を使用するのに適した題材である。

文法事項は、have to、don't have to、will、must、mustn'tの助動詞を扱う。助動詞については、文の語順が非常に重要であると考え、1学年で既習の can、can't を用いた文を想起させることで、文の語順・用法などを理解させる手立てとするとともに、それぞれの助動詞の意味をしっかりと覚えさせたい。

2学年は海外派遣に参加する生徒もいるので、このユニットを通してホームステイについての基本的な知識をしっかりと身に付けさせたい。

3. 生徒について

全体的に明るい雰囲気があり、授業における音読練習では多くの生徒がよく声を出し、ペア活動を通して互いに助け合う姿も見られる学級である。Warm-upでの英問英答は、多くの生徒が積極的に挙手し発言しようとする意欲が見られる。しかし、発問に対する挙手発言はやや固定化しており、意欲を持って教師の問いに答えようとする姿勢が不足している。

定期テストの結果は、男女で格差があり、比較的理解力の高い女子に比べ、男子はやや低い。特に、聞いて理解はできるものの、「書く力」と「まとまった英文を読む力」が不足している。

そこで、これまで授業では Reading for Communication など比較的長い英文があるときは、意図的に手立てを組んで、まとまった英文を読み取るトレーニングをしている。リーディングポイントを与えて読む方法、チャンク毎に意味のまとまりを意識して読む方法、動詞に着目しながら読む方法など様々実践して、生徒が自力でまとまった英文を読む力をつけさせたいと考えている。

4. 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

①[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]

- ・ have to、will、mustなどの助動詞を用いて、積極的に自分の伝えたいことを説明し、相手の伝えたいことを理解しようとしている。
- ・ アメリカでのホームステイについて考えながら要点を読み取ろうとしている。

②[表現の能力]

- ・ have to、will、must などの助動詞を用いて、指示や申し出などを相手に伝えることができる。
- ・ 内容が伝わるように音読することができる。

③[理解の能力]

- ・ 助動詞に注意しながら、結論となる部分など、説明の重要な点を読み取ることができる。

④[言語や文化についての知識・理解]

- ・ have to、will、must などの助動詞を用いた文の形・意味・用法について理解している。
- ・ アメリカでの家庭生活のルールについて理解している。

(2) 評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知 識・理解
・ ホームステイについて 興味を持ち、すすんでそ の内容についての英語の 文章を読み、発表しよう とする	・ 助動詞を用いて、自分 の意志を相手に伝えるこ とができる	・ 助動詞を含む英文を聞 いたり読んだりして、そ の内容を理解できる	・ 助動詞を用いた文を作 ったり、意味や用法につ いて説明したりすること ができる

5. 指導と評価の計画

時	ねらい・主な学習内容	学習活動における具体的な評価規準	評価方法
1	【Starting Out】 ・ have to、don't have to を用いた文 の形・意味・用法を理解し、表現でき る	・ have to、don't have to を用いて、身近なことについて話した り書いたりできる A：複数の文で表現することができる 努力：助動詞の意味や語順を再度指導する	・ 発言 ・ ワーク ・ ノート ・ 音読
1	【Starting Out】 ・ has to、doesn't have to を用いた文 の形・意味・用法を理解し、表現でき る	・ has to、doesn't have to を用いて、身近なことについて話した り書いたりできる A：複数の文で表現することができる 努力：助動詞の意味や語順を再度指導する	・ 発言 ・ 観察 ・ ノート ・ 音読
1	【Dialog】 ・ will を用いた文の形・意味・用法を理解 し、それを用いて簡単な対話ができる	・ will を用いて、自分の意志を伝えることができる A：語句を変えたり、加えたりしながら会話を発展させることができる 努力：基本となる対話を再度指導する	・ 発言 ・ ワーク ・ 音読
1	【Reading for Communication】 ・ must、must not を用いた文の形・ 意味・用法を理解し、表現できる ・ ホームステイに関するまとまった英 文を読み取ることができる	・ must、must not を用いて、身近なことについて話したり書い たりできる A：複数の文で表現することができる 努力：助動詞の意味や語順を再度指導する	・ 発言 ・ ワーク ・ ノート ・ 音読
1 (本 時)	【Reading for Communication】 ・ ホームステイに関するまとまった英 文を読み取ることができる	・ 助動詞に注意し、まとまった英文を読み取ることができる A：助動詞に注意し、結論となる部分など重要な文章を正しく読 み取ることができる 努力：助動詞の意味や語順を再度指導する	・ 発言 ・ ノート ・ 音読

6. 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・ ホームステイに関するまとまった英文を読み取ることができる。(理解の能力)

(2) 本時の構想

昨年度の学習定着状況調査の結果を分析すると、学年が上がるに従って、読み取る文章量が多くなるためか、「まとまった英文を読み取る力」が不足していることが指摘されている。これについては、「語彙や基本表現が不足している」、「文の流れに沿って読み取ることができない」など様々な要因が考えられるが、生徒が自分の力で英文を読み取ることができるようにするためにも、授業の中では、英文の意味内容の指導だけでなく、英文の読み方指導をしていく必要があると考える。

英文の読み取り方としては、今まではリーディングポイントを与え、それを手がかりに内容理解する方法や、訳文の穴埋め方法などを行っていた。

本時では生徒とのインタラクティブな読み取りを取り入れ、意味のまとまり(チャンク)を意識させ、読み取っていく方法を通して、自分の力で英文を読み取る力をつければ、新しい題材に出会った時もヒントなしに読み進めることができるのではないかと考えた。

また、本時では、読み取りを進める前に、概要把握をする意味で本文の音読を取り入れた。本文の音読については、本文の意味内容を理解した上で、行間に込められている登場人物の感情まで表現できるように音読することも考えられるが、本時では意味内容を理解する前に音声化することが既習単語・表現の想起につながり、概要把握の手がかりになると考え、実施することにした。

(3) 具体の評価規準

A	B	努力を要する状況の生徒への手だて
・助動詞に注意しながら、結論となる部分など重要な文章を正しく読み取ることができる	・助動詞に注意しながら、ホームステイに関するまとまった英文を読み取ることができる	・助動詞の意味や語順を再度指導する

(4) 本時の展開

段階	時間	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 (◎評価の観点および評価の方法)
導 入	5	1 あいさつ	1 あいさつをする	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を指定して書き取らせる。 ・CDを聞かせテキストは見せない。
		2 基本文の復習	2 前時の基本文の書き取りをする (ディクテーションによる writing)	
		3 学習課題の把握	3 本時の学習課題を把握する	
【学習課題】 ホームステイに関するまとまった英文を読み取ることができる				
展 開	40	4 新出語句	4 新出語句を確認する ①Chorus ②1人ずつ ③通して3回	<ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュカードの使用し、回数をこなすことで定着を図る。
		5 概要把握	5 本文を音読する ①教師の後に続いて Chorus reading ②個人で Buzz reading (1分)	<ul style="list-style-type: none"> ・音声化によって概要を把握し、なめらかさは要求しない。 ・時間を指定し練習させる。
		6 本文内容の把握	6 生徒とインタラクティブに内容を読み取っていく	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒から答えを引き出すようにする。 ・初めは概要読みをし、必要に応じて、黒板を使い詳細読みをする。
		7 本文音読	7 本文を音読する ①教師の後に続いて Chorus reading ②Pair reading (片方が日本語で片方が英語を言う)	<ul style="list-style-type: none"> ・意味内容を理解した後のため、イントネーションを意識させる。 ・意味理解を図るため、正確な訳は求めないこととする。
		8 類似した英文の読み取り	8 類似した英文を読み取る	◎助動詞に注意しながら、まとまった英文を読み取ることができたか (シートの観察・発表)
終 結	5	9 まとめ	9 本時のまとめを確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・板書をもとに、ポイントを振り返る。
		10 次時の予告	10 次時の予告を聞く	